

News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

令和元年7月

夏空がまぶしい季節となりましたが、皆様おかわりなくお過ごしでしょうか。さっそく Newsletter 第17回配信です！ どうぞお楽しみください。

<診療科紹介 皮膚科>

皆さんこんにちは。今回は、自治医大皮膚科の紹介をいたします。

皮膚は、我々人間の全身を覆い、成人ではその面積が約 1.6 m² (畳一枚分) に相当する人体最大の臓器とされています。その役割は多岐に及び、体外からの微生物の侵入や物理化学的侵襲から体を保護するだけの単なるバリアではありません。体温調節機能、感覚器としての機能に加えて、重要な免疫反応の場でもあることから免疫臓器としての機能も有しており、何よりも人間の外観を決定し、その精神活動や社会活動にも大きな影響を与えています。そのため、皮膚疾患の治療では、単に病気を改善させるだけでなく、改善後の精神面や社会的側面についても考えながら治療にあたらなければなりません。

自治医大皮膚科は皮膚科疾患全般を取り扱っていますが、中でもアトピー性皮膚炎、乾癬、自己免疫性水疱症をはじめとする**皮膚免疫疾患**、そして悪性黒色腫を含む皮膚悪性腫瘍については全国的にも症例数が多く、生物学的製剤や免疫チェックポイント阻害薬など最新の治療経験も豊富です。また皮膚外科手術も多数行っており、リンパ節郭清術、皮弁・筋皮弁による再建術、下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術など、他大学では皮膚科で扱っていないような手術も積極的に行なっています。いずれの疾患においても、根治を目指せない場合は病勢のコントロールだけでなく、見た目以上の患者満足度にも常に配慮しながら診療にあたっています。

医局員はベテランから若手まで幅広く在籍し、子育て中の時短勤務医も在籍しています。2017年度、2018年度には、当科の別々の若手医師が病院長賞を 2 年連続で受賞しており、少人数ながら活気あふれる医局です。また、当科での豊富な症例を経験するために、他大学から研修に来られる先生も多数おり、当科での研修の後、各大学で活躍されています。

見学は随時募集しておりますので、興味のある方は是非一度、お気軽にご連絡下さい。



【医師国家試験予想問題】

総論からは、症候、検査、治療。医学各論では、炎症性皮膚疾患、腫瘍・母斑性皮膚疾患、その他の皮膚疾患、ほぼ、均等に各分野から設問されています。ただし、マイナー科であるのでその問題数は多くなく、皮膚科がカバーする広範囲の知識を網羅して記憶することは困難で効率も悪いです。各分野毎に主要なテーマを絞って、自分なりに理解することに主眼をおいて勉強し、知識の暗記は、他科疾患の勉強時に皮膚症状がでたときなどに、面倒がらずに皮膚科教科書を参照して整理するとよいでしょう。

設問1 結節性硬化症の皮膚所見で、出生時からみられるのはどれか。

- a. 白斑
- b. 色素斑
- c. 爪囲線維腫
- d. シャグリンパッチ
- e. 顔面血管線維腫

解説

結節性硬化症の症状は、古典的には、知能低下、癲癇発作及び顔面の血管線維腫が3主徴とされてきたが、血管線維腫は、出生時にはなく、乳幼児期から発症し、小児期から思春期に著明になる。一方、白斑は、生下時あるいは出生後早期に出現し、もっとも早く認識される皮膚症状として重要で、結節性硬化症の診断基準（2018年）では、長径5mm以上、3個以上の低色素斑が大症状の1にリストされ、散在性小白斑（confetti skin lesions）が少症状の1にリストされている。成長とともに消退傾向となる。結節性硬化症の96%の患者になんらかの皮膚病変は起こるが、m-TOR阻害薬の外用薬が内服薬よりも効果が早く、有効でとくに血管線維腫に有効である。

解答

- a. 白斑 正解
- b. 色素斑 カフェオレ斑が1、2個みられることもあるが、健常人に高頻度に見られる程度である。多発する褐色色素斑なら神経線維腫症1をまず疑う。
- c. 爪囲線維腫 Koenen 腫瘍ともいわれ、被角線維腫が爪囲に多発したもので、足趾に好発し、遅発性で通常思春期移行に出現する。成人の約90%にみられる。
- d. シャグリンパッチ 粒起革様皮膚ともいわれ、膠原線維の増加からなる結合組織母斑で、硬い隆起性局面を呈する。5歳以下で25%、5歳以上で50%の患者にみられる。通常は思春期以後出現する。
- e. 顔面血管線維腫 出生時にはなく、乳幼児期から発症し、小児期から思春期に著明になる。

設問2 体内の湿潤環境と体外の乾燥環境の境界である皮膚の中で、水分含有量が急激に変化する場所はどこか。

- a. 角層
- b. 顆粒層
- c. 有棘層
- d. 基底層
- e. 基底膜

解説

表皮の表面は角層に覆われ乾燥状態を保ち、有棘層や基底層では、生細胞の内外は細胞内液と細胞間液で満たされる。その境界にある顆粒層は通常3層で構成され、ケラトヒアリン顆粒や層板顆粒を持つ。顆粒層第2層の細胞間にタイトジャンクションが形成され、その上の第3層で、ケラトヒアリン顆粒に含まれるフィラグリンなどが細胞内に放出されケラチン線維が重合され細胞内に満たされ角質細胞となる。一方、層板顆粒内の脂質などが細胞外に放出され、細胞間脂質を形成する。よってこの時、細胞間液や細胞内液が消失し水分含有量が急激に変化する。

解答

- 上記説明のとおり
- b. の顆粒層が正解